

発表タイトル	ハワイ・ホノウリウリ抑留所の変遷とその機能 －太平洋の中のホノウリウリ抑留所／収容所－
発表者所属名	日本歴史研究専攻
発表者氏名	秋山 かおり

太平洋戦争下にハワイの日系人などを強制的に収容したオアフ島内陸部のホノウリウリ抑留所／収容所は、1943年3月上旬から1945年12月下旬頃まで運営されていた。これまでその開設時期の様子は知られているものの、日米開戦を契機に樹立されたハワイ軍政府による戒厳令（現地時間1941年12月7日～1944年10月23日）撤廃後のホノウリウリ抑留所／収容所の役割は、閉鎖時期も含めてあまり注目されてこなかった。

これまで同所は、ハワイ準州に在住していた日系人のみならず、ドイツ系・イタリア系アメリカ人などを強制収容した抑留所として、また大西洋・太平洋戦線での戦争捕虜のための収容所として活用されたことが明らかになっている（1900～1959年ハワイはアメリカ合衆国の準州だった）。その一方で、ハワイで行われた戦時強制収容のひとつの特色として、抑留対象者が継続的に選別されていたことが注目されてきた。これらの抑留者たちはアメリカ本土の抑留所へ移送されたケースと、ハワイ準州内で抑留されたケースとに大別される

上記のような背景を踏まえ、アメリカ公文書館でのホノウリウリ抑留所の日誌ならびに報告書の調査からこれまでの文献調査に照らし合わせた結果、以下のことがわかる。

- 1 日系人抑留者数の推移から見えるハワイ軍政府の動き
日米開戦から抑留対象者の逮捕・抑留を執り行ったハワイ軍政府とFBI（アメリカ連邦捜査局）の取締りの活発化した時期が見られる。また、日系人抑留者のアメリカ本土への移送による人数の変化も確認できる。
- 2 戦争捕虜数の推移から見える太平洋の中のハワイ
日米戦の最中、ハワイでは各地の戦線から一時的に戦争捕虜を収容する目的でホノウリウリを含む複数の捕虜収容所が設立され、その後アメリカ本土へ戦争捕虜が移送された場合があった。したがってホノウリウリの戦争捕虜数の増減から、連合軍がハワイを捕虜移送の中継地点としていたことがわかる。また、同所では一時的にサイパンの日本人の戦争孤児が収容されていた時期もあり、ホノウリウリが多目的に活用されていた。
- 3 ハワイ戒厳令以降のホノウリウリの役割
戒厳令はアメリカ市民である日系二世をハワイ準州内で抑留する事を可能としていたが、この撤廃にともない日系二世抑留者の拘留が不可能となったとされる。しかし、戦後のホノウリウリ抑留所の日誌は釈放不可とされた日系人抑留者などが引き続き収容されていたことを示し、同所は戦後においてもなお、陸軍当局が戦争遂行上隔離するべきだとした人びとを収容する機能を持った施設として存続した。

以上を中心にポスター発表では図表を交えて説明し、博士論文での重要な論点としたい。